

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890100429		
法人名	株式会社 ニッコー・ケイサービス みかげ倶楽部		
事業所名	グループホーム 紫陽花		
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉山手2-11-26		
自己評価作成日	令和8年 1月 24日	評価結果市町村受理日	令和8年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201
訪問調査日	令和8年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街にあるみかげ倶楽部。施設からの景色は入居者様の居室からも神戸の港を見渡すことが出来、季節ごとの景色を見て頂くことが出来ます。ご利用者様一人一人が安心して安全な日常生活を過ごすことが出来るよう、一人一人に寄り添いながらより良い支援とサービスの提供が出来る施設をこころがけています。
同建物内には看護小規模多機能型居宅介護事業所・訪問看護ステーションを併設しており、医療に特化した在宅サービスを実施しています。利用者様・ご家族様にとって手厚い医療面のサポートで安心・安全な支援とサービスに繋がるよう取り組んでいます。レクリエーションにも力を入れており、イベントなどいろいろなジャンルをご家族様にも参加頂き楽しんで頂いています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山と海に囲まれた見晴らしの良い高台に位置した地域密着型複合施設である。事業所内は明るく清潔感がある。壁面が外光を取り入れるものとなっているため、利用者が作成した装飾作品が光を通してステンドグラスと見まがうインテリアとなっている。季節感のある大型作品は観る者を圧倒する完成度である。ゆったりとした時間の流れが感じられ、利用者の表情の穏やかさにも反映されている。併設の「看護小規模多機能型事業所」訪問看護ステーション」があることで、医療面サポートが手厚く得られ利用者・家族等・職員の安心が担保されている。理念に基づく「利用者」に寄り添う「安心できる日常生活」「自己決定」を職員は日々の支援のなかで実践している。管理者の職員に対する育成・指導が行き届いており、外国人職員の資質向上には目を見張るものがある。利用者の心の豊かさが益々、充実するような支援の継続が期待されます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者様一人一人に寄り添い、お気持ちを受容し、自己決定を大切にします」をスローガンにスタッフ一同心掛けています。御家族様にも行事時にお伝えさせて頂いています。	法人理念、方針、事業目的は玄関に掲示されている。グループホーム理念は各フロア入り口に掲示され目につきやすい。職員は利用者へ寄り添い、本人の自己決定を大切にしながら穏やかな日常生活が過ごせるよう、統一した支援を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の山田地区に属しておりだんじりや地域の夏祭りなどの行事にも参加させて頂いている。施設のイベントや音楽療法などにも参加頂き交流の場となっている。	自治会へ加入し、広報にて地域行事等の情報が得られている。事業所前ではだんじりのパフォーマンスが披露される。地域の夏祭りへの参加や、事業所開催の音楽療法や教会主催の生演奏への参加もあり地域住民との交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設合同行事に近隣の方やご家族様を招いて一緒に行事を楽しんで頂き地域とのつながりに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議を実施しており、地域包括支援センター・民生委員・市域の他の事業所にも参加頂き進捗状況などの報告とご意見を頂き今後のサービス向上に活かしている。面会時やお便りにてご家族様への報告や参加の依頼もかけている。	運営推進会議では、法人関連の看護師など含め多職種の参加がある。議事録は内容が整理され、事故報告・ヒヤリハットの集計も併せて報告されている。職員への事前共有と共に議事録は回覧されている。家族等への送付もなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区のグループホーム連絡会に参加し、近況の情報交換が行われている。本部の事業所とも連携を取り外部との情報交換にも協力して頂き、進捗状況の伝達に尽力いただいている。	グループホーム連絡会が2か月に1度開催され、管理者が出席している。ねむりスキャン導入時や外国人職員の雇用等々の情報発信や意見交換の場となっている。各事業所での問題点や困り事も含めた相談の機会となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを備えており、年2回の研修を実施している。身体拘束適正化委員会の議事録をとっており、やむを得ない状況がある場合はご家族様に十分説明し同意を得て書面に捺印を頂いている。	「身体拘束廃止に関する指針」が策定され「緊急やむをえない場合の身体拘束に関する説明書」の説明を丁寧に行い、家族は納得したうえで署名捺印を行っている。年2回、所内研修が実施され研修報告書を確認できた。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が法の定める「虐待」の意味・範囲を正しく知る為に年2回虐待研修を実施し虐待の種類と範囲認識が出来る環境を作っている。虐待チェックリストをフロアに掲示し職員の意識付けを図っている	年2回の法定研修が実施されている。研修時のみならず、日常業務の中での虐待防止に係る高い意識付けを目指した指導が行われている。接遇関連での言葉遣いや利用者への対応で、異なる目線でのアプローチがあることを示すこともある。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	神戸市の資料を活用し「日常生活自立支援事業」「成年後見制度」等の活用について周知理解を深める努力を行っている、現在1名の申請を行う準備を進めている。	「成年後見制度」「日常生活自立支援事業」のパンフレットは準備されている。職員の内容についての理解度は個人差がある。契約の際に、家族等には口頭での説明を行い、必要時は資料提供をしている。	「成年後見制度」についての一定水準の知識取得を念頭に置き、今後の研修項目として取入れてはいかげでしょうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	インテイクの際利用者様の状況把握に努め事業所の医療連携の体制の説明と共に契約や重要事項説明を行い誤解や不安が生じないように管理者・ケアマネが担当し終末期や緊急搬送などの方針も説明している。	契約は、主としてケアマネジャーが対応している。「重要事項説明書」「終末期の看取り指針」「看取り介護に関する基本指針」「緊急時対応」等についても時間をかけ説明している。家族等にとっての不安が払拭され、十分に納得を得られたうえでの契約締結をしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1度のご家族様アンケートを実施しご意見やご要望を頂き後のケアに活かせる努力を行っている毎月の「紫陽花がより」にて施設内での様子をご家族様にお伝えし、スタッフには毎月のミーティング時にアンケートの内容をを報告しご家族様の思いを確認して日々のケアに繁栄させている。	年1度の家族アンケートが実施され、意見や要望を職員間でも検討し、支援に活かしている。家族の思いは、ミーティングや全体会議を通じ情報共有を図っている。「紫陽花がより」では利用者の日々の暮らしの様子を家族等に伝えている。法人の管理する「意見箱」の設置もあるが投函はない。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各フロアの会議と全体ミーティングを実施しており、個々の意見やご家族様の要望などに対するディスカッションが繰り広げられる環境を整えている。	管理者がほぼ現場にいて、職員とのコミュニケーションは密にとられ、様々な意見の反映は即時対応できる環境である。外国人職員への育成・教育も行き届いており成長著しく、現在に至っている。職員それぞれの能力を発揮する場が整っている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12			○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の向上心に繋がるように日々のコミュニケーションや信頼関係の構築は職員教育に欠かせない。日頃の職員の業務態様とそれに対する的確な評価・報酬が重要であると認識している、些細な事も相談できる環境づくりに努力している。		
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の力量を把握し、職員育成の為出来得る限りの研修等学びの機会を設け、OJTをベースに育成を図っている。神戸海星病院との連携による外部講師を招いての研修も定着してきている。医療連携の訪問看護師による研修も定着してきている。		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し近況報告や情報交換が行える、知り得た情報はグループラインにて情報共有し全体会議でも議題にあげてスタッフ間で協議を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテイクの段階でご本人様の不安な思いや気持ち等を十二分に傾聴し、理解を深め家族様との信頼関係を構築できるよう努めている。しかしながら、利用者様のご要望・希望・その身体的状況などに於いても時には利用者様とご家族様との間に微妙な食い違いがある場合もあり細心の注意を持って対応している。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談・サービス導入段階でご家族様の想い・不安・お困りになっている事等に理解を深めご家族様との信頼関係が構築出来る様取り組んでいる。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の面談・カンファレンスの時点でご本人様の想いやご家族様の想いを慎重に聞き取り計画に取り入れる様にしている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の意向や求めておられるもの、必要とされる介護を職員が一方的に与えるといったような方向性でなく共に問題解決を信頼関係の構築により解決していくといった両方向性のものとして確認するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とスタッフの距離が近い物になりご利用者様の介護について、ご家族様の支援であると同時に基本的にご家族様とのコラボレーション関係を築くことによる介護の質向上を図っていくよう努めている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は感染対策時以外は全面開放としておりご家族様やお知り合いの方々と居室にて談笑されたり、外出して食事やお茶の時間を楽しまれる方も居られる、来訪者とのお写真の送付はとても人気である。	コロナ禍を経ての5類移行後は、面会制限も緩和されており居室で寛ぐことが出来ている。家族、友人との面会・外出も自由に満喫できている。友人との会食の場所へ、職員の送迎で出かける利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様個々の性格や気性を把握し集団生活の中での人間関係の機微を早く察知しそれぞれが孤立する事の無い様に穏やかな雰囲気作りに努め、不安や心配事の無いよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約が終了するケースにはご利用者様・ご家族様のアフターケアにも温かく対応するよう努めている。また入居施設の相談員・ケアマネと連携して入居先での生活がスムーズにスタートできるよう配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様ご本人の思いや希望を普段の何気ない会話からくみ取り、本煮の望まれる本人らしい生活が送れるように配慮している。時々ご家族に連絡し、電話で話される事もある。	利用者一人ひとりのその人らしさを理解するために、ゆったりと側に寄り添うことで、何気ない会話から本人の好みや希望を知ることが大事にしている。外国籍の職員は、適切な指導の元で丁寧な声かけと介護技術を学び、その真摯な姿勢は利用者との信頼関係に結びついている。職員が利用者の思いを把握し、情報を共有する職員間の協力体制は利用者、家族の安心に繋がっている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の個々の経歴・生活歴サービスに至った経緯などについて、折に触れ調べ利用者様のそれぞれの暮らしをサポートすることに努めている ご家族様からもその方のこれまでの生活背景や人柄などを聞き取るように努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一日の過ごし方、心身状況・趣味など現在の状況を注意深く観察し日々の対応に生かしている、特に個々の心身状態・症状の進行推移の変化を細心の注意を持って把握し、職員間で協議・相談の上対処策を工夫して本人像として共通認識を得るようにしている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者様の担当者が毎月モニタリングを行い利用者様の今の状況にあった「活かした介護計画」を実践できるよう努めている。ご家族様にも協力いただき協力医療機関にも意見を頂き半年ごとの介護計画書の作成と年に1度のアセスメントを行い短期目標・長期目標に沿った介護計画を作成している。	職員は、2～3名の利用者の担当を引受け、毎月モニタリングを行っている。利用者のより良い生活が送れるよう、計画担当者、看護師、現場職員、家族等がチームとして話し合い、必要時は、書面での医師の意見も加えた担当者会議を開催し、6か月毎に介護計画を更新している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録の内容は、まさに「現場の生の記録」が本筋であり、それが今後のより良い介護のスタートであることを承知している。日々の記録や申し送りを含めて介護記録の実践に努めている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険サービスだけにとどまらず利用者様の様々なニーズに対応できるよう多機能化を実現している。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の有用な地域資源を最大限に活用すべく地域の包括支援センターとの協働をはかりながら利用者様の便宜を図るよう努めている。常に地域の社会資源を活用できるよう心掛けている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご家族様・ご本人様の要望や希望を確認し、かかりつけ医と協力医療機関との二本立てにて対応している、夜間や緊急搬送などの対応に医療連携を行っている訪問看護ステーションのオンコール対応の体制も構築されている。	入居前から受診していた医師を、そのまま継続して主治医とする利用者が数名いる。3件の訪問診療機関から、利用者の既往歴に応じたかかりつけ医を紹介し、利用者、家族等の安心に繋げている。訪問看護ステーションとの協力体制も構築され、医師との連携もスムーズに行われている。他訪問歯科医との契約を結ぶ利用者もいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の心身の状況変化や異変を察知した際医療連携の訪問看護に連絡し応急処置についての指示と後の対応についての指示を仰ぐシステムが構築されており常に変化の有無を確認し看護師との連携を行っている。			
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は訪問看護によりサマリーを提出し入院中の連絡は看護師が主導となり情報交換や相談を実施している、退院後の指示書・特別指示書が出た場合は訪問看護と連携して対応している。	利用者の異変に気付いた時は、訪問看護師にサマリーを作成してもらいスムーズな入院に繋げている。入院中も、訪問看護師と病院側との密な連携で情報が得られ、退院後の利用者、現場職員の安心になっている。		
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の対応について説明を実施しご本人様・ご家族様の希望を把握している。重度化及び終末期のケースには利用者・ご家族様・医療関係者との間で把握に努め漏れの無い様に努めている。主治医・訪問看護との連携を摂る事で終末期の看取りケアについても実施できる体制を取っている。	契約時に、家族に終末期や重度化した場合に、施設で行える対応について説明を行っている。「終末期の看取り指針」「看取りについての同意書」「救急隊員への情報確認表」「心肺停止状態で発見した場合の対応」などの書類が整備されている。看取り期には、家族に再度確認し、納得した上で事業所での看取りに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、職員は応急処置などの初期的処置出来るよう定期的に医療連携ミーティングを実施し医療研修を実施している。			
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策のマニュアルを作成し準備している。日頃より災害に備えマニュアルを熟読し、利用者様の非難が支障なく行える様年2回の訓練も行い消防署からのアドバイスを頂き改善点があれば改善を行っている。	避難訓練は、昼間、夜間想定で、年に2回行い、マニュアルや災害時の持ち出し書類はきちんと整備されている。備蓄品は、1階に保管しており、賞味期限前に利用者との試食会も行っている。毎年、消防署の協力で心肺蘇生の訓練を継続し、全職員の技能習得に取り組んでいる。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保として個人への尊厳は業務遂行の原点として考えている。トイレ介助や入浴等もプライバシーを損ねないように同性介助の希望があれば希望に添えるよう配慮に努めている。	高齢であっても、羞恥心があることを常に意識して対応することは、利用者の尊厳を守る大事な基本として職員に指導している。利用者のトイレ介助時は、大きな声での声かけは適切でないなど、つい発してしまいがちな事柄にも注意するよう職員間で学び合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護業務を行う際、利用者様各自の希望に気を配らず、介護者のペースで行いがちであるが、絶えず介護業務の原点を考え、例えば衣類選びひとつをとっても利用者様の希望・意思に沿えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様各自の生活ベースを大切に、日々の生活を組み立てるよう努めている。管理者中心に、利用者本位のサービス提供が出来るように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活に変化を持っていただく為に、おしゃれ・身だしなみは大切な人間の営みであり相応の配慮を心掛けている。衣類に関しても気候よ季節に合ったものを利用者様本人に選んで着て頂けるように配慮している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常生活の中で 食事は重要なイベントであり楽しい食卓を提供できるよう月に1度の特別食を実施している。炊飯・汁物の準備は施設にて利用者様と一緒に出来る事は一緒に行っている、配膳下膳・食器の片づけを普段の生活の一部として行っている。	食事は、事業所で、炊飯と味噌汁を作り、副菜は冷凍で届いたものを湯煎して提供している。利用者にとって美味しい食事は楽しみの一つであり、毎月の特別食は、利用者のリクエストに応えるメニューを提供できるよう努めている。夏のイベントとしてのバーベキューは、家族の参加もあり皆で楽しめている。利用者と一緒におやつ作りのレクレーションも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の食事に於ける嗜好・習慣・形態などを考えた食事対応を図ると同時に栄養摂取・水分確保にとりわけ傾注している。食事摂取量が減っている時は、その要因を探り看護師にも相談しながら改善に努めている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは各ご利用者様それぞれの能力に応じて洩れなく介護実施することで、口腔内の清潔の保持が出来るよう努めている。ご家族様の希望で月1度の口腔チェックの往診も行っている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	眠りスキヤンの検知により覚醒のタイミングで声掛けを行い極力といれでの排泄を目指している夜間にはポータブルトイレを使用しているご利用者もおられる、羞恥心への配慮となるべく座って排泄が行える環境づくりに努めている。	利用者の日常生活の状態を細かく把握し、それぞれ様子が見られたら、トイレに誘導するなど利用者の自立を支援している。夜間も眠りスキヤンの利用で、声掛けのタイミングを探ることで利用者の安眠を極力妨げないようにトイレ誘導ができるようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の身体のリズムの応じた排泄への声掛けや食事・給水・にて便秘の予防を図っている、トイレ使用時の腹圧の掛け方をさりげなく声掛けを行って促している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各フロアに普通浴槽があり、週2回午前中の入浴支援を実施している一人一人の完全個別を実施ゆったりと入浴時間を設けリフレッシュタイムとなっている。	入浴は、各フロアに普通浴槽があり、マンツーマンでゆっくり時間を取っている。希望があれば、同性介助も可能である。身体状況により一人介助では困難な利用者には、二人介助で浴槽に浸かる体制が整えられ、重度化しても心地よい入浴時間が味わえる支援は利用者への満足に繋がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りスキヤンの導入により睡眠の状態が見える事で安全で安心な休息時間と個々のリズムの把握が出来るようになった。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は利用者様及び介護者にとり、大変重要且つ管理の厳格性を持つべき問題である。厳重な管理意識の元、業務遂行している。また往診時に主治医に薬に関する助言を頂き、副作用の飲み合わせなどについて意識を高めるようにしている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の利用者の生活に喜びや潤いを持って頂くため各々の好み、役割り活動の機会を設け、利用者様の自立心、生活意欲などの涵養を図っていくように努めている。その方の背景を理解し、各自の生活が満足のいくものに近づくように支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周りの散歩をご家族様と一緒にいる事も多く近くの水車小屋や深田池迄の散歩コースを気候の良い時期には日課としている、桜の季節には桜のトンネルのドライブコースの人氣が高くトンネル通過のアンコールがかかる事も多い、毎年の楽しみの一つの様である。	施設の周りは坂道が多く歩行には注意が必要であるが、近くの桜の名所や水車小屋跡へのお花見やドライブは利用者の楽しみになっている。家族との外出や外泊に制限はなく、面会時に一緒に散歩する利用者もいる。レストランで旧友と待ち合わせをする利用者の生き活きとした表情や会話に、その方が過ごしてきた生活歴を知ることができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様自身でお金の所持はしていない。ご家族様とお買い物に出られることもあるが基本的には現金の所持は無い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の携帯電話やタブレットでの通信は実施できる環境を整えている、クリスマスカードや年賀状のやり取りもあり、ご家族様やお知り合いの方から感謝の声も多い。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほぼ全員のご利用者様がリビングで過ごす時間が多中感染対策への注意は厳重に実施している。2時間おきの換気や加湿器による加湿など湿温度計を設置して管理している。廊下には全員で制作した作品を展示しており、楽しく談笑しておられる、次の作品作りの相談も飛び交っている。	事業所の壁など全体が淡いピンク色の色合いで暖かさを感じ、利用者が手作りしたペーパークラフトの作品があちらこちらに飾られ来館者の目を楽しませてくれる。利用者が過ごす共有空間の換気、湿度、温度などに注意を払い、感染症対策にも力をいれている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	集団生活の中でも、共有空間で一人になれる所・2.3人で過ごせるコーナーなどを作り、集団からくるストレスの緩和が出来るよう配慮して、思い思いの時間が過ごせるように、場所づくりを心掛けている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室ベット・クローゼット・洗面代が設置されているが、今までの生活の中で使い慣れた馴染みの家具やソファ等自由にもちこんで頂いている、馴染みの物に囲まれて安心して安全な居室になるよう配慮している。	明るい居室には、利用者が長年愛用していたドレッサーや引き出し、机、思い出の写真などが持ち込まれ、その人らしい温かい雰囲気が伺える。事業所からは、ベッド、クローゼット、洗面台、カーテンが設置されている。居室入口の表札の上にカタカナでも表示され、外国籍の職員への配慮も見られた。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の活動力特性に見合った施設内の環境整備を施し、居室及び共有部分の両方であらゆるリスクの極消化を図る様に努める事で、円滑に生活が出来るように配慮している。		

(様式2)

事業所名:グループホーム紫陽花

目標達成計画

作成日: 令和8年3月2日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会のレベル向上に努める	運営推進会議をご家族様・スタッフも同席してもらいサービスの向上に努める。	運営推進会議を行うにあたり、ご家族様やスタッフも参加頂き、内容の共有と意見交換を行い共に情報の共有を行う、議事録の内容を毎月のイーディングで報告し苑スタッフにも現状の把握	1か月
2	6	事業所の理念をもっと知って頂く	じぎょうしょの理念がどのようなものなのかご家族様にもっと知って頂き、利用者様とのかかわりをより身近なものにして頂く	毎月ご家族様に郵送している(紫陽花通信)に大きくスローガンを掲げ、事業所がどのような思いで日々ご利用者様と関わっているか認識して頂く。	1か月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。